

積木の箱 (1968)

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 Color
時間 84分
初公開日 1968/10/30
公開情報 大映

【解説】

三浦綾子の同名小説を増村保造が映画化。池田一郎と増村が脚色を担当した。監督自身、本作のことを「少年のキタ・セクスアリス」と表現している。

佐々木一郎は北海道の観光王の息子で、母トキ、長女奈美恵、次女みどりと暮らしていた。ある日一郎は、父の豪一と奈美恵が裸で抱き合っているところを目撃してしまう。奈美恵は幼いころに拾われた娘で、豪一の愛人だったのだ。一郎は家での食事を拒否し、毎日パンを買いに出かけた。一郎はそこで働く久代に惹かれていた。一郎は自分を挑発してくる奈美恵を抱き、二度と父親と寝ないように約束させる。しかし奈美恵は約束を破るだけでなく、実は久代がかつて豪一に襲われ、そのときにできたのが久代の一人息子だと告げるのだった。

【クレジット】

監督 増村保造
企画 三輪孝仁
原作 三浦綾子
脚本 池田一郎
増村保造
撮影 小林節雄
美術 下河原友雄
編集 中静達治
音楽 山内正
出演 若尾文子
内田喜郎
緒形拳
松尾嘉代
梓英子